

農業・農協問題研究所東海支部第11回研究例会案内

地域から食と農の連携について考える

政局の混迷から戸別所得補償制度等の農業政策の行方が不透明で、また震災の影響で一時的に潜んでいたTPP参加問題も再燃しています。さらに原発事故もあり食の安全への不安感も払拭できていません。そんな中、環境に配慮して、「地域の食料は地域の大地から」の思いが高まっています。大垣市での農業振興や、農協と生協との連携による栽培自慢の取り組みなどから、転換期における食と農の連携のあり方を考えていきます。

日時：2011年11月19日(土)午後1時～3時30分
場所 JAにしみの大垣営農経済センター(ファームズ隣)
(大垣市東前町955-1 TEL/0584-73-8180)
12時半 受けつけ開始
参加費：無料、資料代：100円(会員は無料)



昼食は、この夏にリニューアルしたファームズマーケット内のレストランにてとることができます。地産地消バイキング(450円)など。

研究例会

(司会:岐阜大学 荒井 聡)

13:00 開会挨拶

農業・農協問題研究所東海支部 安部 淳(岐阜大学名誉教授)

JAにしみの 指導販売部長 市川浩示さん

13:10 基調報告 大垣市における農業振興の現状と課題

今井 健 さん(岐阜大学 特任教授)

休憩(13:50 - 14:00)

14:00 栽培自慢 特別栽培米 レンゲ米はつしもの生産に取り組んで

JAにしみの大垣経済センター

14:20 消費者組織と地域農業 - レンゲ米はつしもの農業体験などから -

コープぎふ

14:40 コメントと討論 大垣市、生産者など

15:20 まとめ 村上一彦(農業・農協問題研究所東海支部 副支部長)

15:25 閉会挨拶 岡田厚生(農業・農協問題研究所東海支部 支部長)

(例会終了後、総会を短時間で開催します)

主催：農業・農協問題研究所東海支部

後援：JAにしみの、コープぎふ

連絡先：農業・農協問題研究所東海支部事務局

岐阜大学応用生物科学部 荒井 聡 058-293-2895 arai@gifu-u.ac.jp

：橋本吉広(地域と協同の研究センター) tj6y-hsmt@asahi-net.or.jp